

開閉耐久性能【配線用遮断器・漏電遮断器】

JIS規格では右表のように開閉耐久回数を決めてあります。テンパール配線用遮断器・漏電遮断器はこの性能を十分に満足しております。

詳細については、配線用遮断器：JIS C8370
漏電遮断器：JIS C8371を参照してください。
漏電遮断器の場合、テスト装置による開閉耐久は漏電検出回路に電圧を印加し、テスト装置で遮断器の引外しを行い投入は手動で行います。

フレームの大きさ (AF)	開閉ひん度 (回/時)	開閉耐久回数(回)		
		通 電	無通電	合 計
100A以下	360	6,000	4,000	10,000
100Aを超え、225A以下	300	4,000	4,000	8,000
225Aを超え、600A以下	240	1,000	5,000	6,000
600Aを超え、800A以下	120	500	3,500	4,000
800Aを超え、1000A以下	60	500	2,500	3,000
1000Aを超え、2500A以下	60	500	2,000	2,500
2500Aを超え、5000A以下	60	400	1,100	1,500

定格感度電流【漏電遮断器】

電路の一部に漏電が発生し漏電遮断器の感度電流以上の漏洩電流が流れると、内部漏電検出回路がこれを検知し直ちに電路を遮断します。この時必ず引外し動作する感度電流を「定格感度電流」といい漏電遮断器はこの定格感度電流以下で引外し動作を始めるよう調整されております。

漏電遮断器の定格感度電流を選定するためには右表のような使用条件等を考慮する必要があります。

- JIS C8371
- 高感度形：30mA以下
 - 中感度形：30mAを超え1000mA以下
 - 低感度形：1000mAを超え20A以下の漏電遮断器

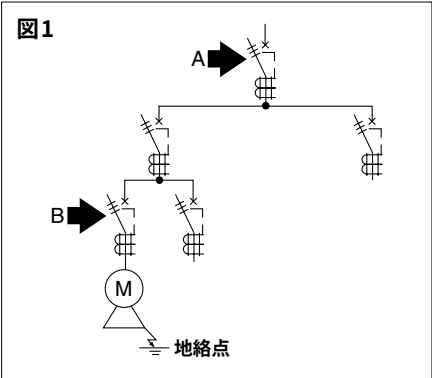
■選定基準例(主に人体保護目的の場合、動作時間は高速形(0.1秒以内))

感度電流		使用条件														
高感度形	15mA 30mA	■水気がある場所等感電の危険が高い場所。 ■活線接触による感電でも保護する場合。 ■移動、可搬形機器で接地が確実にとれない場合。														
中感度形	100mA 200mA 500mA	■機器の接地が確実に行われている回路。 ただし機器の接地抵抗は下表値以下とする。 ■大きな容量の回路で高感度形では誤動作してしまう場合。 <table><tr><th rowspan="2">感度電流</th><th colspan="2">許容接触電圧(JEAG8101)</th></tr><tr><th>25V</th><th>50V</th></tr><tr><td>100mA</td><td>250Ω以下</td><td>500Ω以下</td></tr><tr><td>200mA</td><td>125Ω以下</td><td>250Ω以下</td></tr><tr><td>500mA</td><td>50Ω以下</td><td>100Ω以下</td></tr></table>	感度電流	許容接触電圧(JEAG8101)		25V	50V	100mA	250Ω以下	500Ω以下	200mA	125Ω以下	250Ω以下	500mA	50Ω以下	100Ω以下
感度電流	許容接触電圧(JEAG8101)															
	25V	50V														
100mA	250Ω以下	500Ω以下														
200mA	125Ω以下	250Ω以下														
500mA	50Ω以下	100Ω以下														

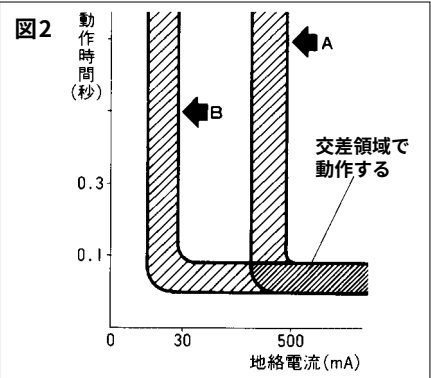
時延形【漏電遮断器】

時延形漏電遮断器は、漏洩電流検知から遮断まで一定の遅れ時間を持たせたものです。これを上位遮断器として使用することにより、事故回路のみ遮断でき他回路への波及を防止することができます。(漏電選択遮断)

- JIS C8371
- 時延形：0.1秒を超え2秒以内動作



■図1のような回路において上位の漏電遮断器(A)が中感度高速形で、下位の漏電遮断(B)が高感度高速形であった場合、図2でわかるように上位の漏電遮断器(A)が動作する感度電流以上の地絡電流があった場合は上位、下位関係なく動作してしまいます。



■上位の漏電遮断器(A)が中感度時延形の場合は図3のように上位の漏電遮断器(A)、下位の漏電遮断(B)の特性が全く交わらず確実に協調がとれていることがわかります。

